

第16期(2014年3月期) 第2四半期決算のご説明

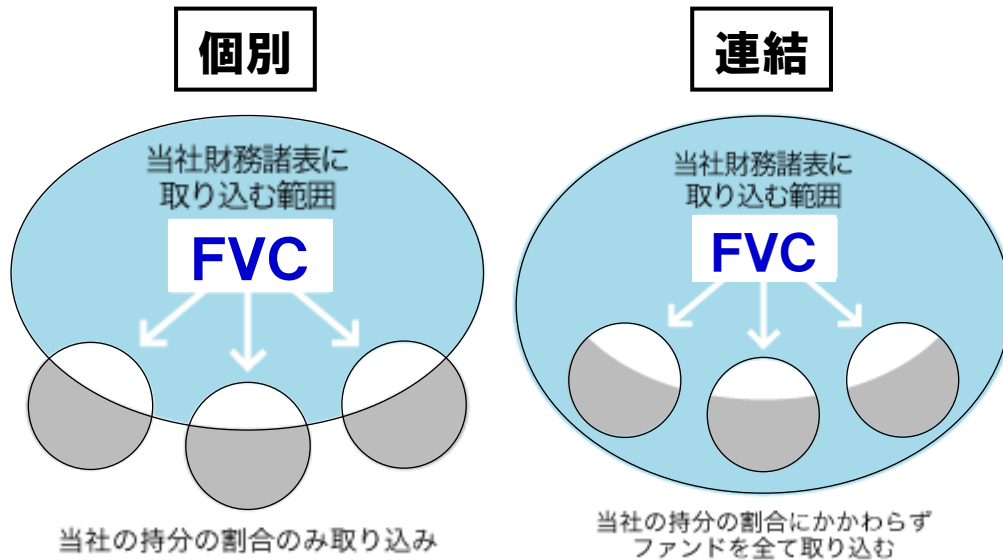
フューチャーベンチャーキャピタル株式会社
(JASDAQスタンダード, 証券コード8462)

本資料は情報の提供のみを目的としており、当社が発行する有価証券及び当社が管理運営するファンドへの投資勧誘を目的とするものではありません。また、本資料に掲載されている事項は資料作成時点において入手した情報に基づいたものですが、その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありません。今後、予告なしに変更することがありますのでご了承ください。

本資料の数値は、特に指定がない限りすべて2013年9月末現在のものです。

本資料における記載数値について

当社の経営成績及び財務状態をよりの確に表すため、本資料では、基本的に投資事業組合の**当社持分のみを連結した個別決算数値を記載**しております。



投資事業組合の運用総額に占める当社持分の割合23.9%

<連結決算の場合>

- 連結貸借対照表
 - ・自己資本比率が低下
- 連結損益計算書
 - ・営業投資有価証券にかかる損益が増幅
 - ・投資事業組合等管理収入が内部取引とみなされ、相殺消去(管理報酬等)

目次

- 1. 株式市場環境 … P.4
- 2. 2014年3月期第2四半期
決算説明 … P.7
- 3. 収益改善に向けた取り組み … P.20

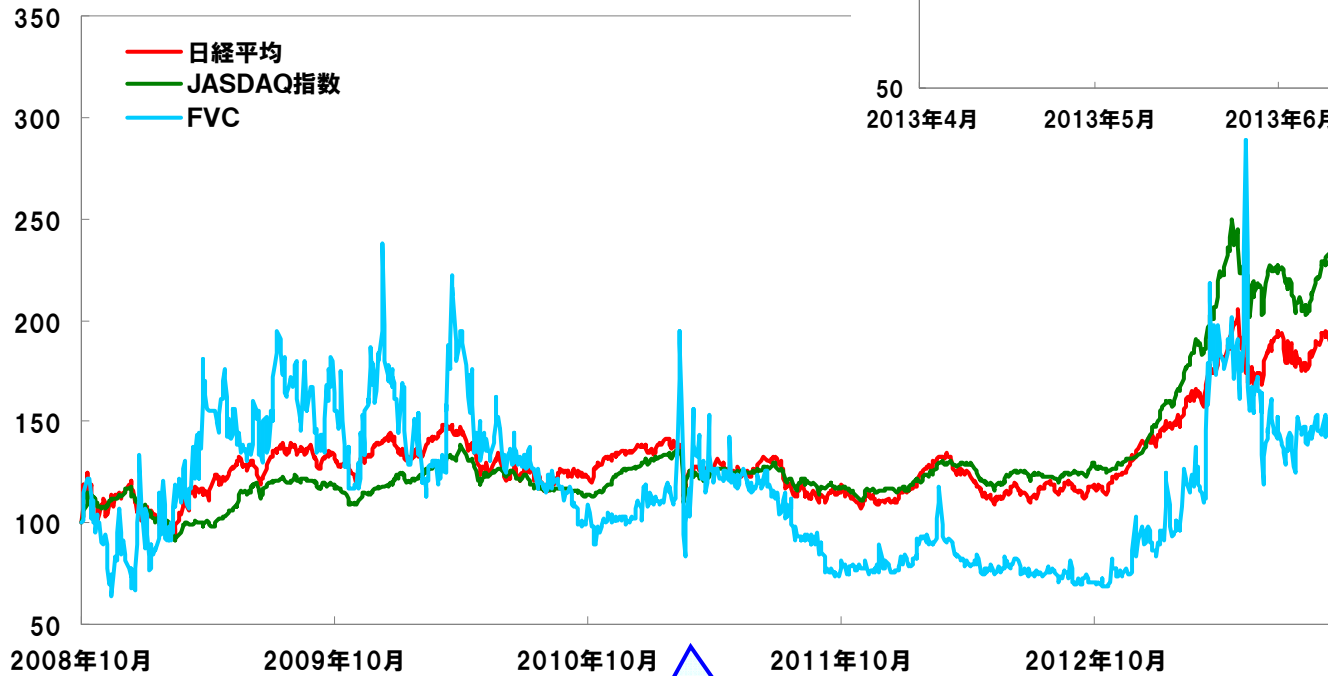
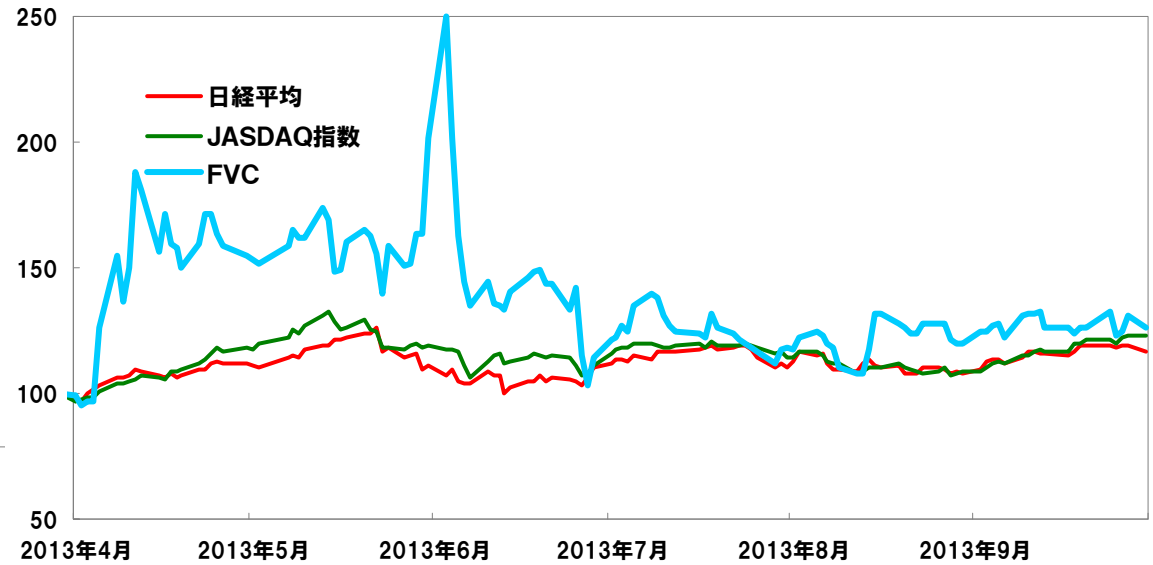
【参考】 会社概要



1. 株式市場環境

1.1. 株式市場の状況

株価は昨年来5月にかけて上昇後、下落
その後は一進一退の値動き
リーマン前の水準には至らぬものの、
株価水準は大幅に改善

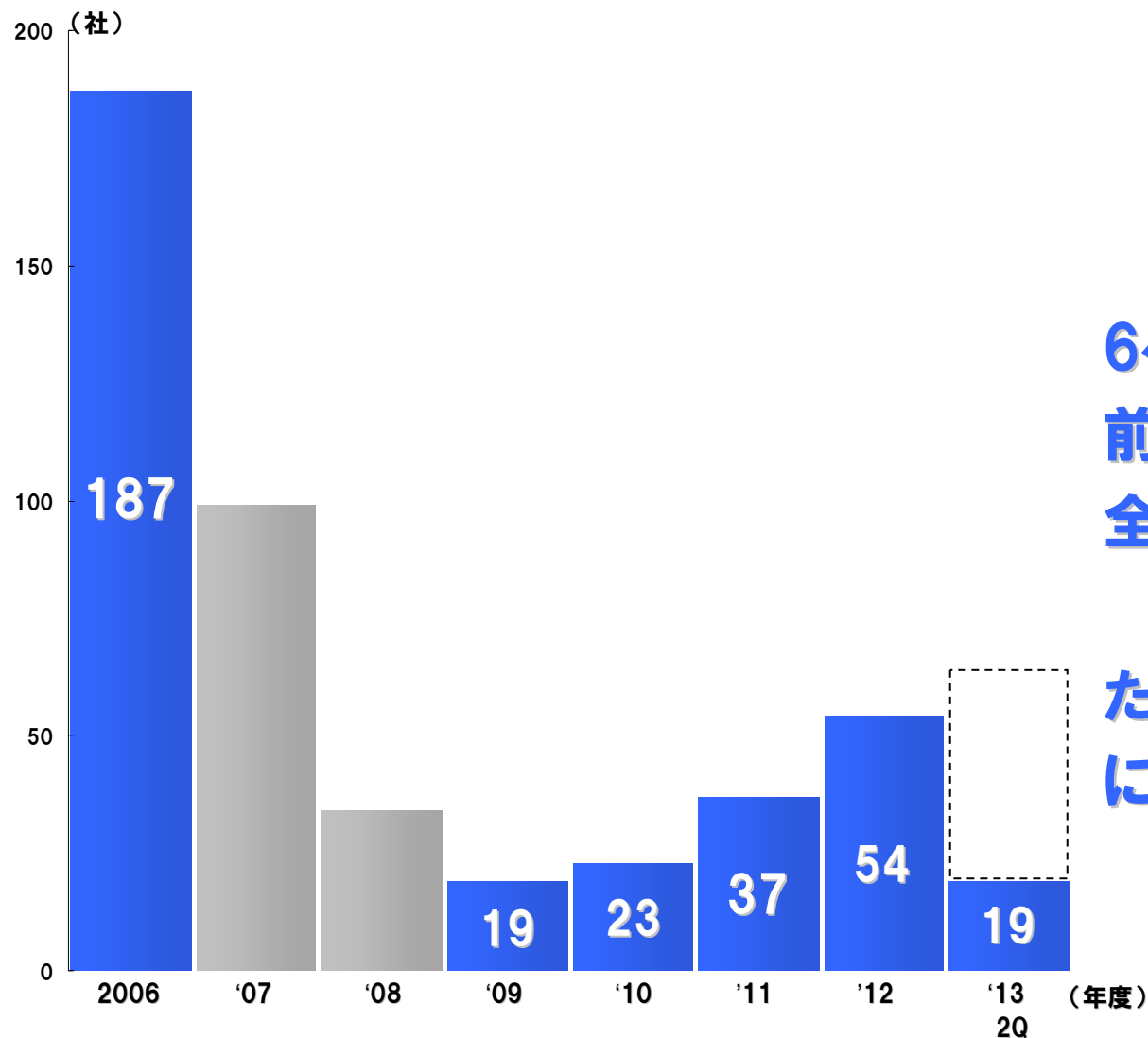


(右上) 2013年4月1日を100とする指数
(左下) 2008年10月28日を100とする指数

日経平均史上最安値
(リーマンショック直後)

東北地方
太平洋沖地震

1.2. 新規上場市場の状況



新規上場市場

6ヶ月経過時点で19社が上場
前年同期の19社と同数ながら、
全社で初値が公募価格を上回る

ただし、直近ピークの2006年度
には遠く及ばない水準



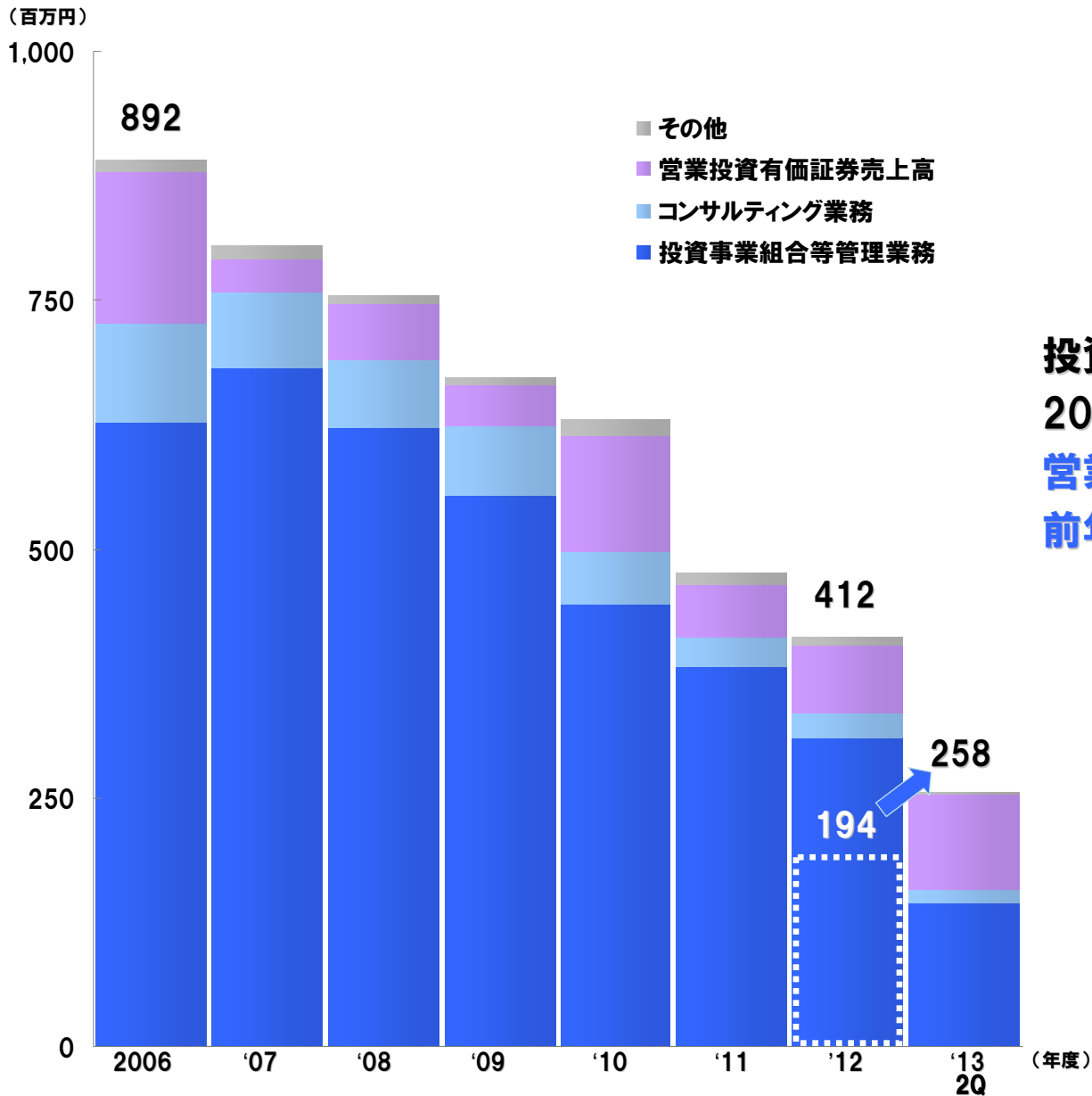
2.2014年3月期第2四半期 決算説明

2.1. 決算概要

営業投資有価証券売上高の増加により売上高は増加したものの、営業投資有価証券に係る損益自体は芳しくなかったことから、最終損益はほぼ横ばい

単位:百万円	第15期第2四半期 2012/4-2012/9	第16期第2四半期 2013/4-2013/9	対前年同期比	第15期通期 2012/4-2013/3
売上高	194	258	+64	412
営業損益	△29	△35	△6	△52
経常損益	△44	△49	△5	△83
当期損益	△50	△54	△4	43
純資産	265	241	△24	359
総資産	1,331	1,239	△92	1,458
自己資本比率	18.7%	18.4%	△0.3	23.5%

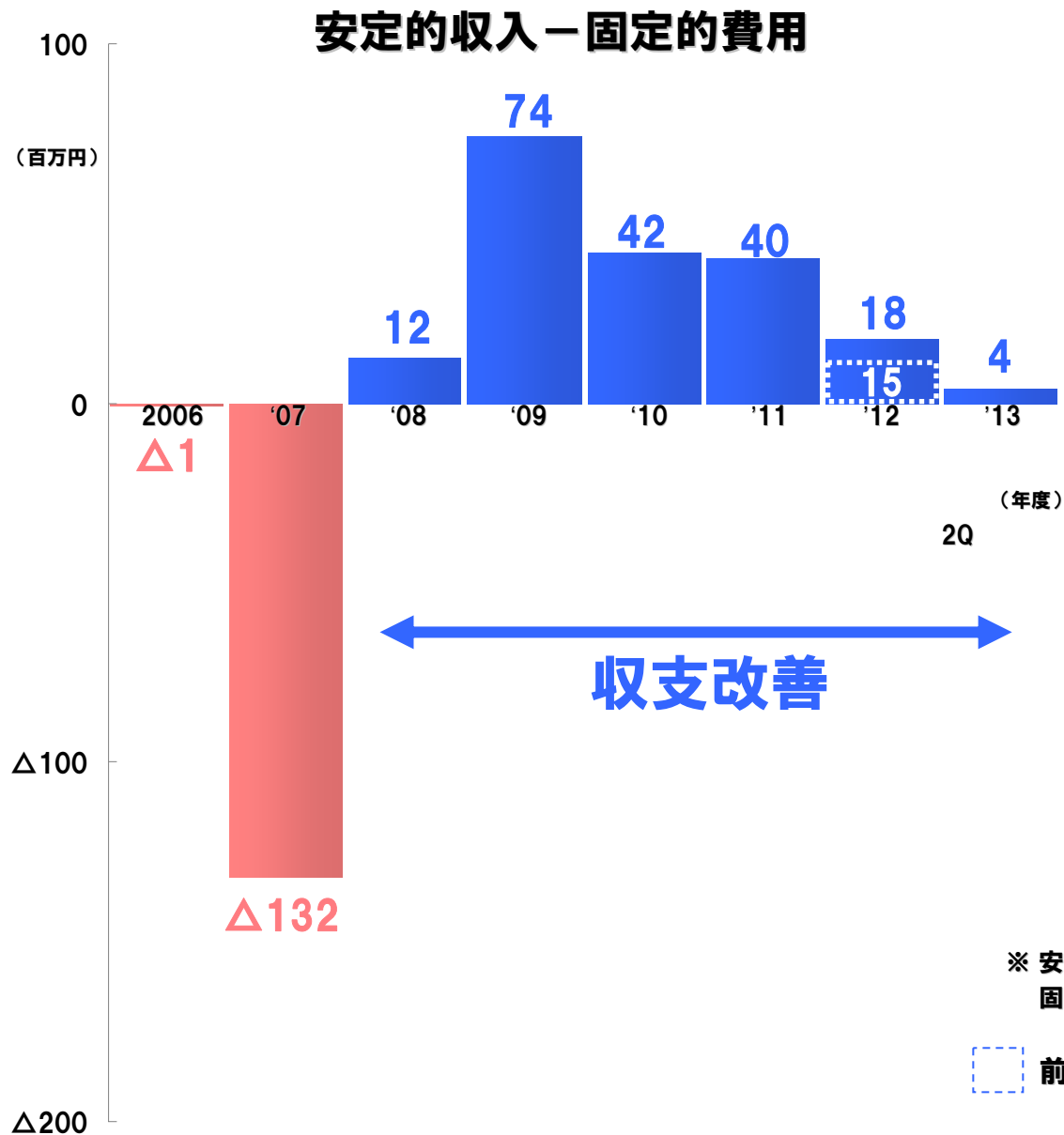
2.2. 売上高推移



売上高

投資事業組合等管理業務収入の減少が続き、
2006年度をピークに減少傾向
営業投資有価証券売上高の増加により
前年同期比では33%の増収

2.3. 安定的収入と固定的費用のバランス



安定的収入と固定的費用

2006年度より安定的収入と固定的費用の
バランスが悪化

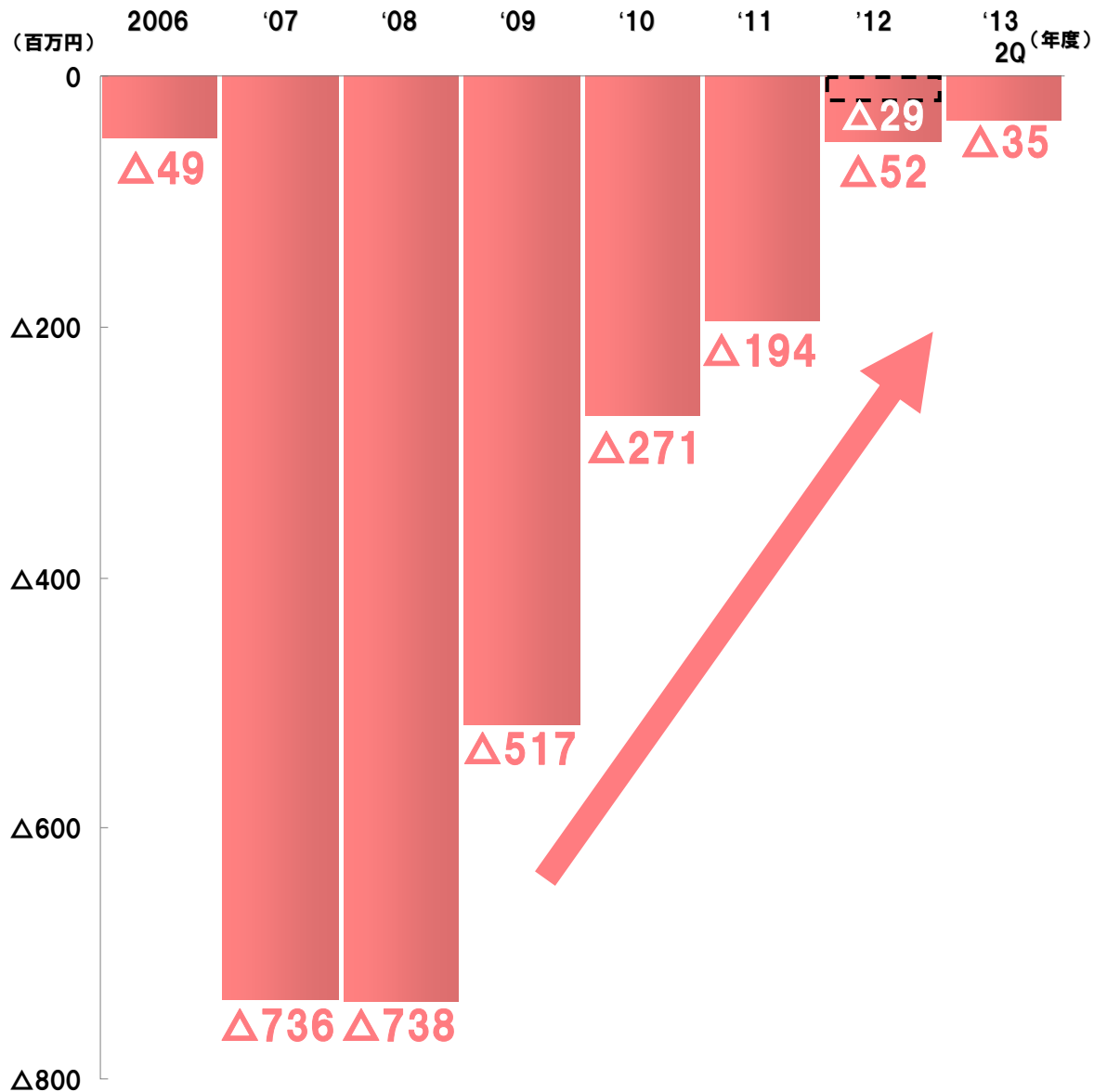


経費削減を進め、2008年度以降は
収支改善

※ 安定的収入＝投資事業組合等管理収入＋コンサルティング収入
 固定的費用＝販売費および一般管理費＋売上原価（営業部門における活動経費）

前年同期の数値を記載

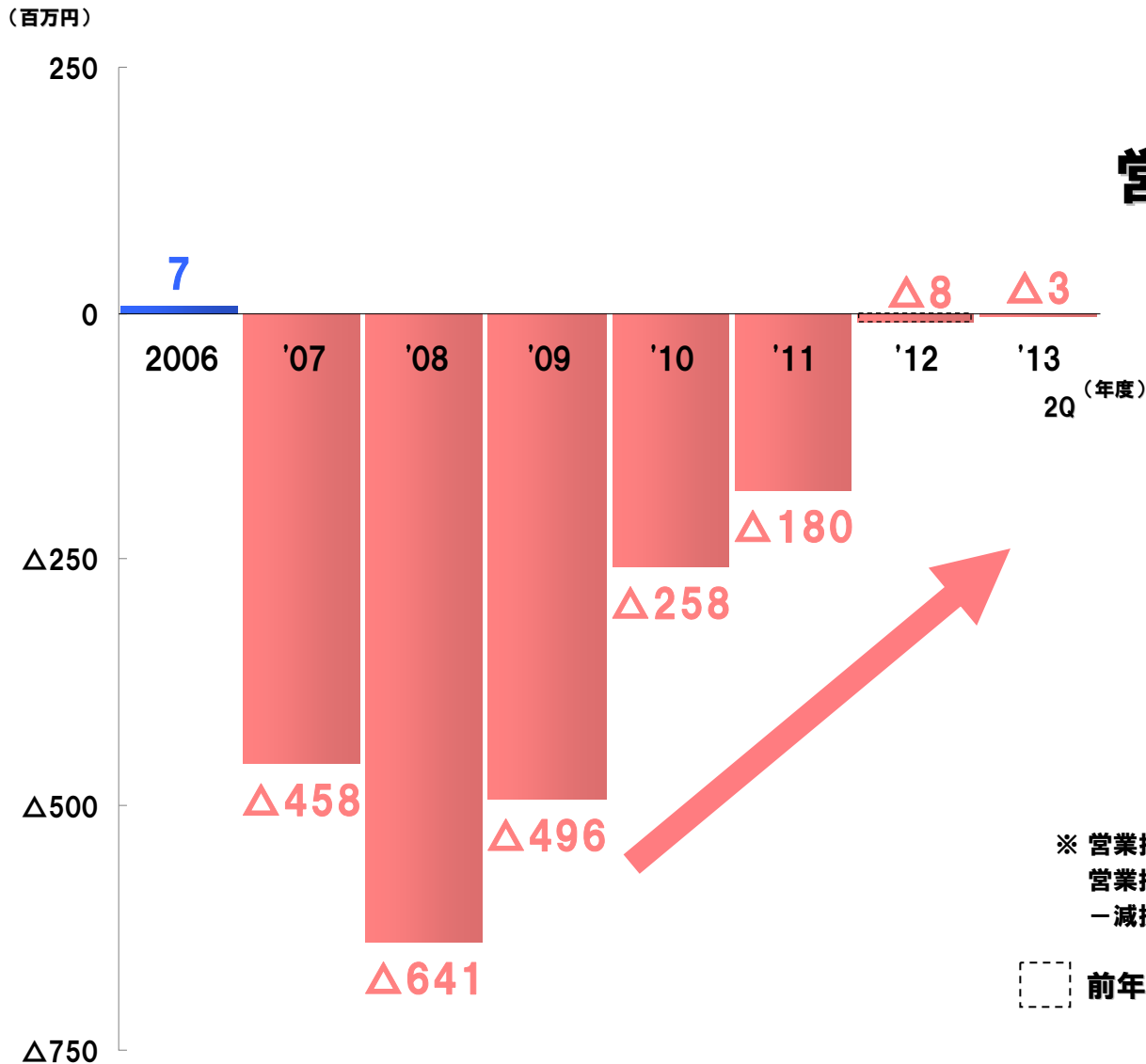
2.4. 営業損益推移



営業損益

営業投資有価証券に係る
引当金繰入額が減少し、
2008年度をピークに改善傾向

2.5. 営業投資有価証券にかかる損益(合計)



営業投資有価証券にかかる損益

引き続きマイナスが続いているもののマイナス幅は大幅に縮小

※ 営業投資有価証券にかかる損益 =
 営業投資有価証券売却高 - 売却原価 + 売却にかかる投資損失引当金戻入額
 - 減損等 + 減損等にかかる投資損失引当金戻入額 - 投資損失引当金繰入額

前年同期の数値を記載 (△8)

2.6. 営業投資有価証券にかかる損益について

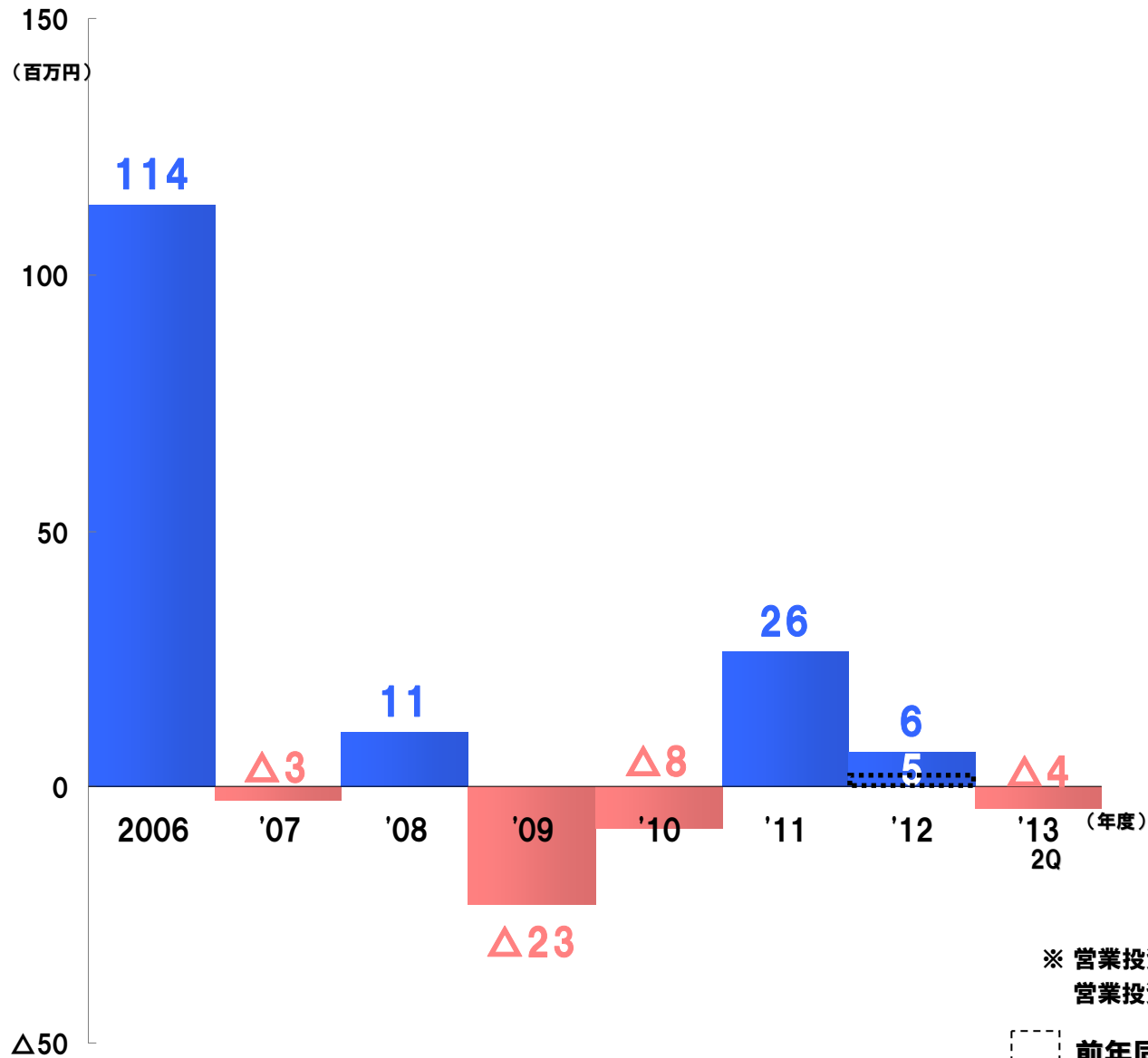
営業投資有価証券にかかる損益＝

①売却にかかる損益＋

②減損等・投資損失引当金繰入にかかる損益

※ 本資料においては、端数処理（切捨て）の影響で合計額が一致しておりません。

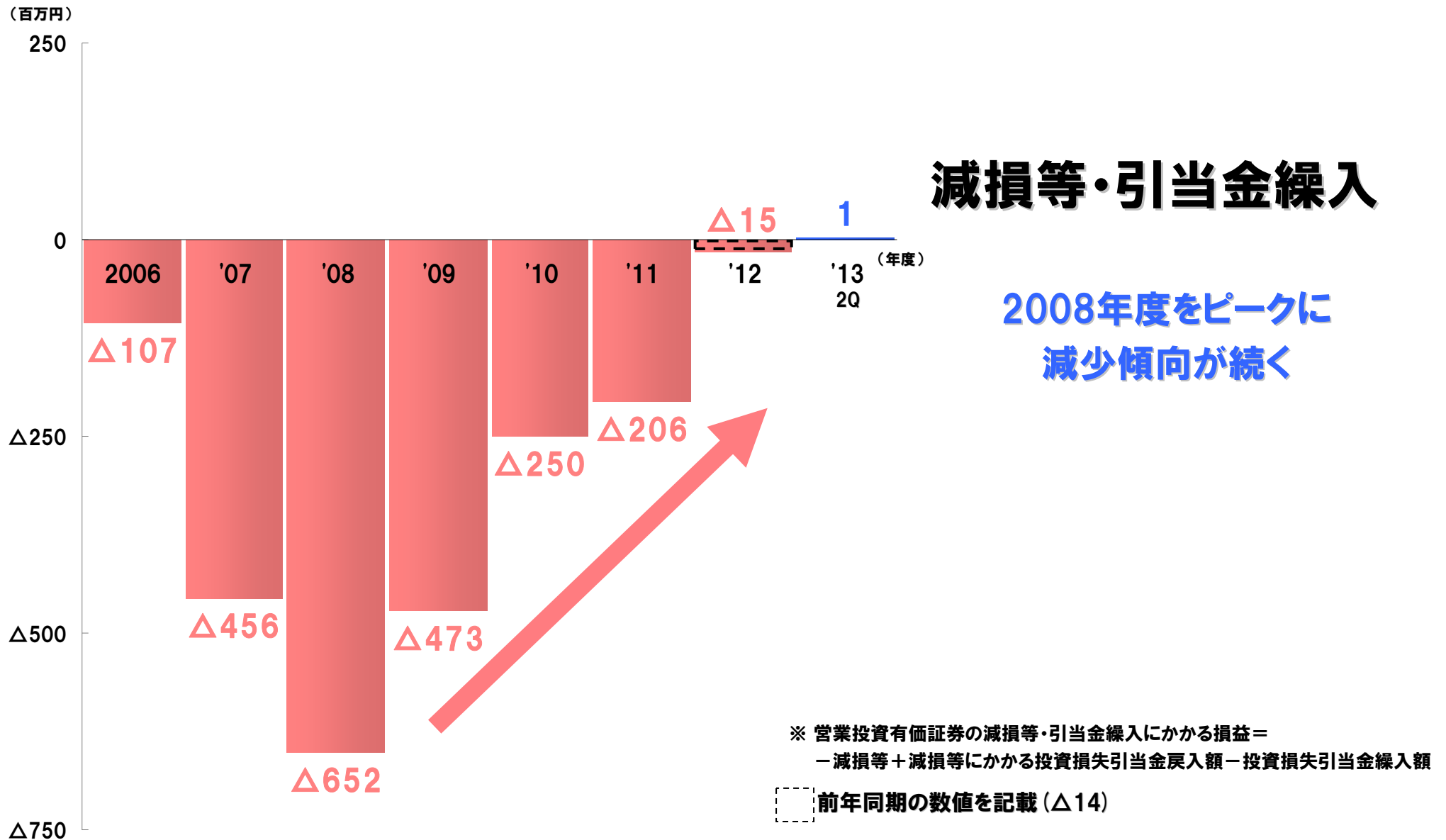
2.6. 営業投資有価証券にかかる損益(売却)



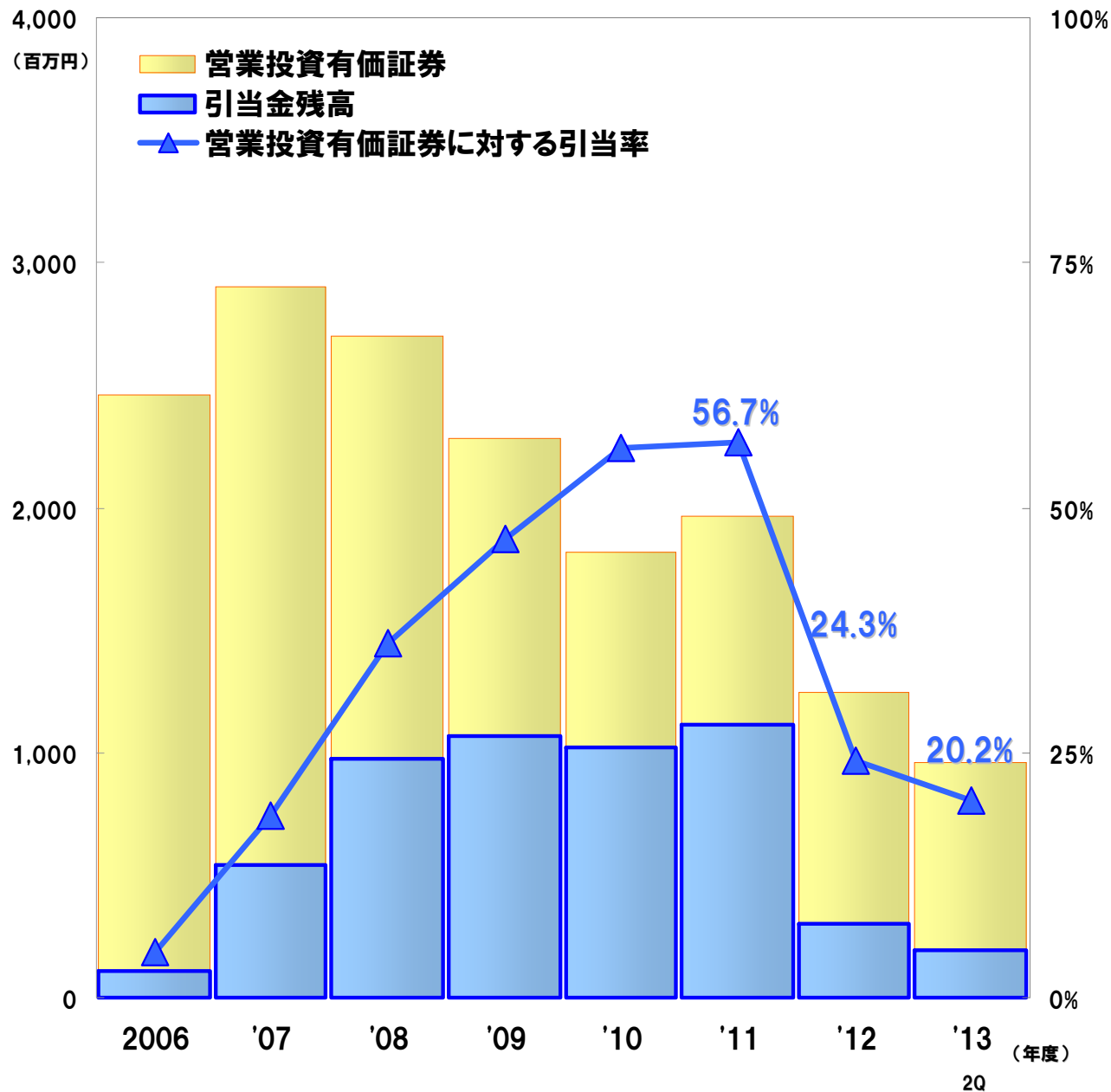
営業投資有価証券の 売却にかかる損益

売却にかかる損益は
若干のマイナス

2.6. 営業投資有価証券にかかる損益(減損等・引当金繰入)



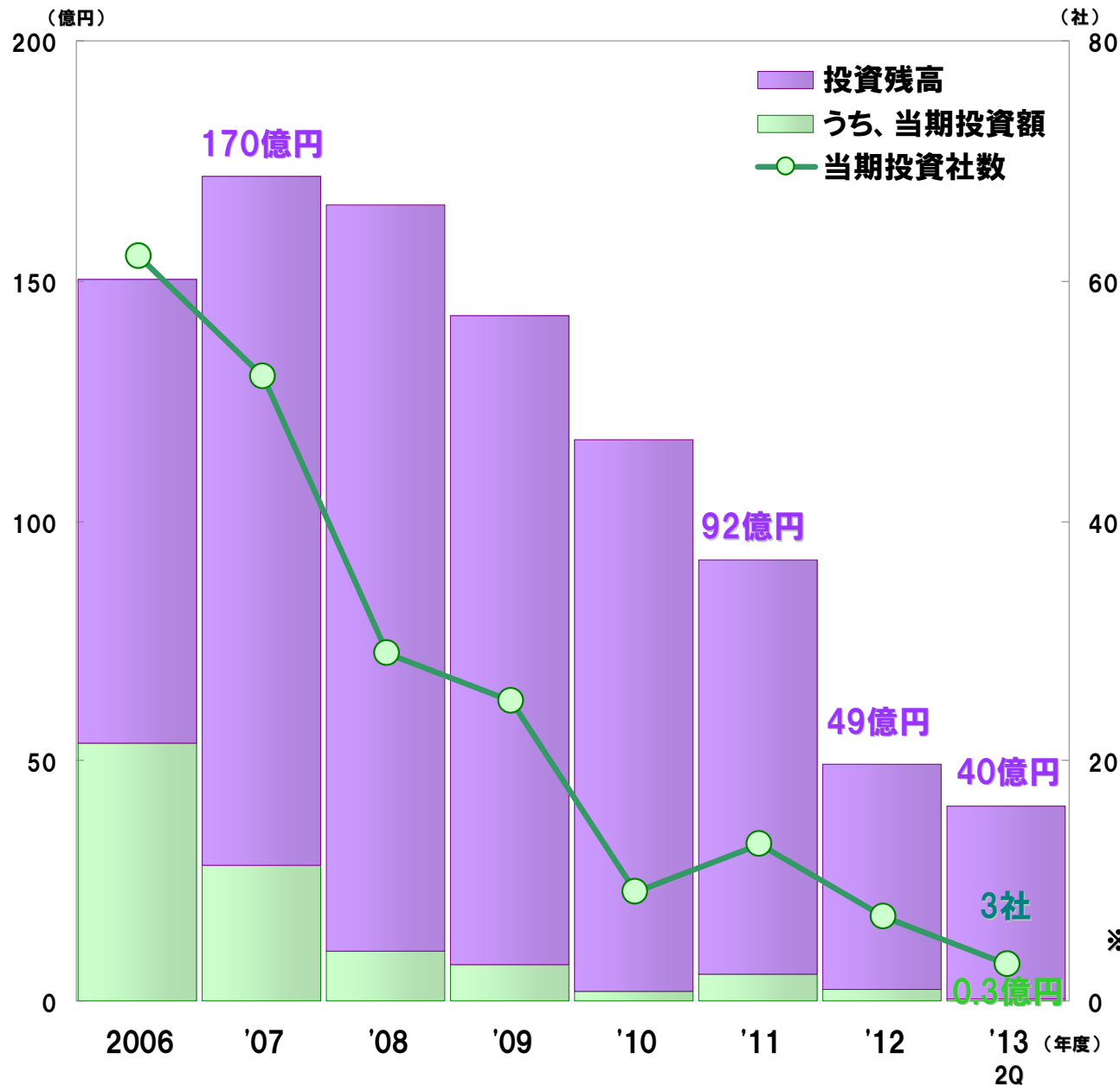
2.7. 営業投資有価証券と投資損失引当金



営業投資有価証券に対する引当率

旗艦ファンドの存続
 期限が迫る中、
 回復可能性評価により
 引当率が減少

2.8. 投資活動



投資活動

売却活動の推進と
投資額の減少により、
2007年度をピークに
投資残高は減少が続く

※ 連結対象の投資事業組合すべてを含んだ数値を記載

2.9. 上場企業紹介①

株式会社ジェイエスエス

上場日 : 2013年6月27日

上場市場 : JASDAQスタンダード

本社所在地 : 大阪府大阪市

事業概要 : スイミングスクールの運営、指導業務の受託及び水着等の販売

当社最大ポートフォリオの新規上場

投資時点
株価

1,000円

⇒

上場初値

1,200円

上場初値
投資倍率

1.2倍

当社運用組合持分は2013年9月30日現在、株式を保有しており、2013年9月末時点の株価は688円です。

2.10. 上場企業紹介②

株式会社アドメテック

地域ファンド投資企業

上場日 : 2013年9月4日

上場市場 : TOKYO PRO Market

本社所在地 : 愛媛県松山市

事業概要 : 癌及び腫瘍等の治療・診断技術の開発及び製造販売等

株式会社ありがとうサービスに続き、えひめベンチャーファンドから
累計5社目の新規上場

投資時点
株価 (平均)

205円

⇒

上場初値

155円

上場初値
投資倍率

0.8倍

当社運用組合持分は2013年9月30日現在、株式を保有しており、2013年9月末時点の
株価は155円です。

3.収益改善に向けた取り組み

3.1 収益改善に向けた取り組み

1. ベンチャーキャピタル事業の更なる強化

- 株式会社カネカとの連携により得た知見を元に、企業間連携システムを開発
事業会社のニーズとベンチャー企業のシーズを効果的に結びつけるツールとして利用
- インキュベーション事業の拡大による起業エコシステムの構築
share KARASUMAに続き2013年3月にshare YODOYABASHI deckを新設
- ファンドの増額・新設
2013年6月 もりおか起業投資事業有限責任組合を増額（次頁）
2013年8月 投資事業有限責任組合えひめベンチャーファンド2013を新設（次頁）

2. 新たな収益源の獲得

- インキュベーション事業を始めとする新規事業による収益源の多様化
2011年7月に新設し、2012年4月に増床した第1号施設は安定体制に
2013年3月に新設した第2号施設に続く案件を引き続き開拓し、年1件の新設を目指す
- 新規ファンドの設立、ファンドの管理受託
テーマを絞ったファンドの新規設立に向け企画、営業活動推進中
- 自治体向けコンサルティング事業
2011年愛知県、2012年大阪市に続き、福島県から調査事業を受託

3.2 ファンド増額・新設

2013年6月

もりおか起業投資事業有限責任組合を増額

設立時点ファンド総額50百万円→100百万円

- ・当社初の創業支援ファンド
- ・盛岡広域地域の起業家や創業間もない企業を支援
- ・2012年8月の設立以来順調に組入れが進み、ファンド総額を倍増

2013年8月

投資事業有限責任組合えひめベンチャーファンド2013を新設

ファンド総額500百万円

- ・金融機関との二人組合としては当社初の2号ファンド
- ・2004年に設立した投資事業有限責任組合えひめベンチャーファンド2004が来年運用期間を終了することに合わせ、後継ファンドとして設立
- ・2004からは現時点で5社の上場企業を輩出

【参考】 会社概要

- **会社名** : **フューチャーベンチャーキャピタル株式会社 (FVC)**
- **設立年月日** : **1998年9月11日**
- **資本金** : **2,051百万円**
- **発行済株式総数** : **61,534株 (2013年10月1日付で100分割し、6,153,400株)**
- **株式上場市場** : **東京証券取引所 JASDAQ市場 (8462)**
- **所在地** : **京都府京都市中京区烏丸通錦小路上ル手洗水町659番地 烏丸中央ビル**
- **従業員数** : **22名**
- **事業内容** : **未上場企業投資業務、投資事業組合の企画・運営
コンサルティング業務など**